

(別表)

令和元年度 ゼミ学生等地域貢献推進事業 助成対象研究課題一覧

No	市町名	地域課題（指定課題）＝自由課題より優先して採択されます
1	下田市	散歩したくなる商店街のデザインの提案
2	河津町	伊豆縦貫自動車道整備を踏まえた河津町の交流人口の拡大を図るための地域振興
3	伊豆市	市内の観光資源に隣接した園地（旭滝、雄飛滝、瓜生野公園、湯舟川ふれあい公園、阿字苑など）の有効活用
4	伊豆の国市	伊豆長岡温泉の再生に向けた地域資源調査
5	伊豆の国市	管理が容易な農業用水の取水構造の研究
6	小山町	金太郎を活用したグッズの考案
7	御殿場市	空き店舗活用事例調査及び地域振興策研究
8	御殿場市	御殿場市のインバウンド市場調査
9	裾野市	裾野市の新たな戦略作物試験栽培プロジェクト
10	三島市	社会教育事業への大学生の参画促進について
11	富士宮市	芸術による地域振興プロジェクト
12	富士宮市	SDGsの推進と市民啓発の方策の研究
13	富士市	個別浄化槽の実態調査に基づく清掃範囲判断基準の提言
14	富士市	富士市における効果的な肥満対策について
15	静岡市	静岡市における活気のある安全・安心なまちづくりに向けた地域デザイン手法の開発～学・官・民 連携した減災対策（耐震化事業を含む）の推進手法の構築～
16	静岡市	静岡市におけるテレワークの有効性に関する調査研究：持続可能な成長・発展モデルの探索
17	藤枝市	若者を呼び込むための市を紹介する冊子制作業務
18	川根本町	農家民宿・民泊における地域食材を利用した朝食や体験について
19	川根本町	古文書整理
20	島田市	空き地・空き家の活用によるまちなか再生の提案
21	島田市	島田市への来訪者の現状分析と観光資源活用策の提案
22	菊川市	外国人住民の生活支援のための情報入手方法等に関する調査研究
23	菊川市	菊川市における今後のごみ減量及びリサイクル推進施策について
24	掛川市	掛川市立小中学校学校再編計画の策定について
25	掛川市	オリーブの商品化とお茶とオリーブの健康効能の解明について
26	袋井市	アイルランドオリンピックチームの受入に向けた地域の機運醸成について
27	浜松市	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究
28	浜松市	春野町における民間口承文化財（昔話）の採録による地域文化の保存継承
29	静岡県	ボランティアによる里地・里山の保全活動の社会的価値の可視化
30	静岡県	中田島砂丘及び五島地区の海岸湿地における環境保全の仕組みづくり
31	静岡トヨタ自動車(株)	カーシェア普及のためのマーケティング戦略
No	市町名	地域課題（自由課題）
32	伊豆の国市	イノシシの生息状況調査と人との接触機会減少に向けた対策の検討
33	御殿場市	アウトレット客の御殿場市内の周遊状況調査について
34	富士宮市	スペースシェアによるまちなかにぎわいづくり事業
35	富士市	リノベーションによる特色や魅力ある「まちなか」のエリアマネジメントに向けて～地域が求める商店街とは～
36	富士市	富士市内企業の人材不足解消のために行う効果的な学生のUJターン施策について
37	静岡市	徘徊認知症高齢者搜索模擬訓練の参加と事業効果検証
38	静岡市	困難を抱える高校生年代等の居場所づくりについての調査研究
39	川根本町	インスタグラムを活用した地域創造
40	島田市	島田宿名物「朝顔蕎麦」「朝顔饅頭」の復活！
41	菊川市	AI・ICTを活用した地域の現状改善
42	静岡県	「文化力の拠点」における若者の学び・賑わいの場の創出に向けた取組について

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	下田市		優先順位	
課題タイトル	散歩したくなる商店街のデザインの提案			

課題の概要(背景や理由等)	下田市では、人口の減少や後継者不足により空き店舗が増加し、商店街を歩く人が減少することで町の活気が失われている。 市として、空き店舗の対策を行いながら、商店街を市民や観光客が交流する場と位置づけ、人が歩きたくなるような仕組みを作る必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	・市民や観光客が散策することを目的に立ち寄れる、商店街の施策やデザインの提案。(空き店舗の有効活用や商店街の全体的デザイン) ・視覚でも楽しむことができる商店街づくり。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	下田市関係各課 下田市商店会連盟 等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	大学院デザイン研究科
ゼミ・団体名(担当教員)	寒竹伸一研究室、磯村克郎研究室(磯村克郎教授)	連絡先E-mail	k-isom@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	統合政策課政策推進係
電話番号	0558-22-2212
E-mail	tougou@city.shimoda.lg.jp
2019年度担当者	竹田 敏己

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	河津町		優先順位	
課題タイトル	伊豆縦貫自動車道整備を踏まえた河津町の交流人口の拡大を図るための地域振興			

課題の概要(背景や理由等)	河津町には、河津桜や河津七滝等の優れた観光資源があるものの、年々観光客の減少が続いている。一方、県東部地域は、伊豆半島ジオパークの世界ジオパーク認定や伊豆市において2020東京オリンピックの自転車競技が開催される等、国内外から注目が高まっている。 こうした中、本町の山間部においては、伊豆縦貫自動車道の河津IC(仮称)、逆川IC(仮称)の整備・開設が予定されている。この整備を契機に、河津町の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図ることが期待されている。
希望する調査研究内容や期待すること	河津町の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図るため、既存の観光資源や、新たに整備されるICを活かした河津町の新たな地域振興について、若者(学生・留学生)の目線による具体的な提案を行うこと。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	地元自治会 河津町関係各課
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関係団体の紹介等)	所有施設等(会議室など)の無償使用 関係団体の紹介 資料の提供 他

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	日本大学	学部等	国際関係学部国際総合政策学科
ゼミ・団体名(担当教員)	松浦康世	連絡先E-mail	matsuura.michiyo@nihon-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画調整課企画調整係
電話番号	0558-34-1924
E-mail	kikaku@town.kawazu.shizuoka.jp
2019年度担当者	企画調整係長 土屋勉

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	伊豆市		優先順位	1
課題タイトル	市内の観光資源に隣接した園地(旭滝、雄飛滝、瓜生野公園、湯舟川ふれあい公園、阿字苑など)の有効活用			

課題の概要(背景や理由等)	<p>市内には観光資源に隣接したいくつかの園地があるが、イベント等で利用される機会も大変少なく、有効活用されていない状況である。</p> <p>特に阿字苑は弘法大師で有名な「奥の院」という古刹に隣接しているにもかかわらず有効利用がされていない。</p> <p>このため、各園地において、地域利用はもとより観光客にとっても魅力的な活用方法を検討していきたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>各園地の立地条件や特色を活かした、地域の方だけでなく観光客も利用したくなる施設とするため、遊休的公園の観光的活用に向けた施策について、自由な発想で広く可能性を調査研究し、企画の提案を行っていただきたい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ○伊豆市観光協会 ○伊豆市旅館組合 ○(一社)伊豆市産業振興協議会 ○伊豆半島ジオパーク推進協議会 ○地元区
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ○施設に関する情報提供 ○宿泊先の案内 ○会議室の貸与 ○関係団体との連絡・調整

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光商工課 観光施設管理スタッフ
電話番号	0558-72-9911
E-mail	kanko-s@city.izu.shizuoka.jp
2019年度担当者	池田 良実

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	伊豆の国市		優先順位	1
課題タイトル	伊豆長岡温泉の再生に向けた地域資源調査			

課題の概要(背景や理由等)	伊豆の国市の主要産業である伊豆長岡温泉については、中心地である温泉場通りに面して4軒の旅館が現在閉館中であり、再開の目途が立ちにくい状況である。ただし、伊豆長岡温泉は市街化区域の中でも商業区域に指定されており、今後、人口縮小社会が進展していく中で伊豆の国市の中でも人口が集約されていく地域の一つであり、地域の人々が温泉とともに暮らし続けられる街をどのように維持していくかが求められている。
希望する調査研究内容や期待すること	既存の温泉街の課題、見落とししている地域資源などを整理し、観光客と地域住民が共存共栄を図れるまちづくりに向けたアイデアを、若者の視点と、客観的なデータをもとに提示してもらいたい。特に、伊豆長岡温泉との地域資源である芸妓や温泉場通り沿いで旅館中の南山荘などの活用や、他周辺地域や施設との連携による活性化など、訪れる人、泊まる人、暮らす人など多様な人々が笑顔をもたらえる地域づくりに向けたきっかけとなる調査研究になることを期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の国市観光協会 ・伊豆長岡温泉旅館協同組合 ・伊豆長岡温泉場通り振興会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークのコーディネート ・会議室の貸与 ・関係団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光文化部 観光課
電話番号	055-948-1480
E-mail	kankou@city.izunokuni.shizuoka.jp
2019年度担当者	内野 慎也

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	伊豆の国市		優先順位	2
課題タイトル	管理が容易な農業用水の取水構造の研究			

課題の概要(背景や理由等)	伊豆の国市においては、主に水田に供給する目的で大小様々な河川から数多くの用水を取水しているが、多くの用水取水口で河川の増水後に流木や土砂の浚渫が必要となっている。取水箇所によっては、浚渫に多額の費用や営農に支障をきたす場合があり、管理に大きな負担が発生している。
希望する調査研究内容や期待すること	市の管理かつ短いサイクルで浚渫業務が発生している農業用水の取水口のうち、一箇所をモデル箇所として設定し、科学的根拠に基づいた取水構造の調査研究及び浚渫業務の低減に向けた改善策の提案を期待する。なお、改善策については、経済性に優れかつ河川管理者の理解が得やすい提案が望ましい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	伊豆の国市農業商工課・建設課 静岡県、国土交通省 農業者(水利組合)等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	農業商工課 農地森林係
電話番号	0558-76-8003
E-mail	nousin@city.izunokuni.shizuoka.jp
2019年度担当者	異動の可能性があるため不明。(2018年度:石井)

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切1月31日(木)、第二次締切2月28日(木)

自治体名	小山町		優先順位	1/1
課題タイトル	金太郎を活用したグッズの考案			

課題の概要(背景や理由等)	「金太郎生誕の地」である本町では、金太郎の名にちなんだ施設や看板、お菓子など様々な形での金太郎を目にするが、『小山町と言えばこれ』と言われる金太郎グッズは商品化されていない。これまでも、町、商工会や観光協会をはじめ学生等の提案により金太郎にちなんだ商品を研究、開発してきたが商品として定着しているものは、民間企業によるお土産もの程度です。
希望する調査研究内容や期待すること	市場ニーズを把握し、生産から流通、消費までを戦略的に取り組むために・・・ ①金太郎をどのようにグッズ化すれば良いのか。 ②金太郎グッズの販売方法。 ③どのようにしたら金太郎グッズの認知度を上げられるか。 ④2020年に町内で開催されるオリンピックパラリンピックに併せて、小山町を町内外へ(世界へ)アピールできる金太郎グッズの考案 等々 上記の観点で調査・研究を実施していただき、若い学生ならではの提案を行っていただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	小山町商工会、小山町観光協会、小山町DMO推進室、道の駅ふじおやま、道の駅すばしり、町民いこいの家「あしがら温泉」、町の駅金太郎、県立小山高校、町内民間企業、住民代表
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関係団体の紹介、小山町調査時の案内等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	日本大学	学部等	短期大学部
ゼミ・団体名(担当教員)	大久保ゼミ	連絡先 E-mail	okubo.akane@nihon-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	小山町役場 経済建設部 商工観光課 商工班
電話番号	0550-76-6114
E-mail	kankou@fuji-oyama.jp
2019年度担当者	池谷秀之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	御殿場市		優先順位	1
課題タイトル	空き店舗活用事例調査及び地域振興策研究			

課題の概要(背景や理由等)	JR御殿場駅周辺の商店街における空き店舗対策の施策について、昨年度本事業で実施した「空き店舗現状調査」結果及び商店街、高校生へのアンケート結果を基に、全国の空き店舗対策の事例を調査し、御殿場市に合った活用方法等を検討する。
希望する調査研究内容や期待すること	平成30年度に実施した駅周辺における空き店舗の状況を地図に落とし実態調査や商店街、高校生へのアンケート結果を踏まえ、県内あるいは全国の空き店舗対策事例を収集し、御殿場市に合った活用策の考察等をまとめる。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	御殿場市商工会等(必要に応じて商店街、店舗、高校生等)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体・個人・商店等の紹介、その他必要資料の提供

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡英和学院大学	学部等	人間社会学部人間社会学科
ゼミ・団体名(担当教員)	毛利ゼミ	連絡先 E-mail	mohri@shizuoka-eiwa.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	商工振興課 商工労政スタッフ
電話番号	0550-82-4683
E-mail	shoukou@city.gotemba.lg.jp
2019年度担当者	齋藤、宮代

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	御殿場市		優先順位	2
課題タイトル	御殿場市のインバウンド市場調査			

課題の概要(背景や理由等)	訪日外国人旅行者数が3,000万人を超え、自治体でのインバウンド対応をより強固なものにしていかなければならない。当市でも御殿場プレミアム・アウトレットや御殿場高原時之栖などの集客拠点への集客数は増加しており、それに合わせ外国人観光客の増加していることが考えられる。今後、増加が見込まれる外国人観光客を集客するためにも、外国人観光客が何を求めているのかを知り、ニーズに合った対応を行っていく必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	市内の観光施設から数ヶ所を絞り、アンケート調査を行う。各施設ごとにおける、外国人観光客の商品・施設等に対し求めること等について、聞き取り調査を行う。また、観光施設に訪れた外国人観光客に直接アンケート調査を行う。可能であれば、アンケート調査で得られたデータをもとに、今後のインバウンド対応や観光のあり方について思案願いたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	御殿場市関係各課 御殿場市観光協会 市内観光施設
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	御殿場市観光交流課
電話番号	0550-82-4622
E-mail	kanko@city.gotemba.lg.jp
2019年度担当者	熊谷 友彦

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	裾野市		優先順位	1
課題タイトル	裾野市の新たな戦略作物試験栽培プロジェクト			

課題の概要(背景や理由等)	<p>裾野市は大正時代から野芝の産地であり、特に市北部地域は一団の芝畑が多かったが、バブル期以降は需要減とともに、生産者の高齢化・後継者不足により、保管理地や耕作放棄地が増加傾向にある。</p> <p>そこで、戦略作物として薬草の試験栽培を手掛けてきたが、費用に対する収量が見込めず、平成30年度で終了することから、新たな戦略作物の検討・試験栽培を行い、地域農業の活性化を図りたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・裾野市須山地先の圃場で栽培に適した農作物の検討 ・いくつかの栽培条件下で試験栽培した結果から、最適な栽培方法の研究 ・地元農業者と共同研究することで、栽培技術の共有・伝承
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・須山東富士農事組合 ・裾野市農業委員及び最適化推進委員
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・試験栽培を行うための圃場(須山地先:約3,500㎡) ・打合せ等を行うための会議室等(裾野市役所・須山支所) ・地元農業者とのマッチング

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	農学部
ゼミ・団体名(担当教員)	植物機能生理学研究室 (一家 崇志 准教授)	連絡先 E-mail	ikka.takashi@shizuoka.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	裾野市 産業部 農林振興課
電話番号	055-995-1823
E-mail	nourin@city.susono.shizuoka.jp
2019年度担当者	市川 智子

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	三島市		優先順位	
課題タイトル	社会教育事業への大学生の参画促進について			

課題の概要(背景や理由等)	<p>社会教育は、絆づくり・地域づくりに向けた体制づくりのニーズに対応する上でも中心的役割を担っていくことが期待される。そして、社会教育行政においては関係行政部局や大学・民間団体等とも積極的に効果的な連携を図り、地域住民も一体となって協働して取組を進めていくことがより求められている。</p> <p>当市では従来、小中学校や民間社会教育団体等との連携・協働は活発だが、今後は人材や情報・技術等の資源を有する大学等との連携・協働が不可欠である。</p> <p>また、生活が学内に留まりがちな地元大学の学生に、活動範囲を学外・地域に広げて市民(子供)と交流・活動できる場を提供し、卒業前に社会性を身に着ける機会を設けたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の社会参画(社会教育事業への参加)にはどのような形態があるのか ・大学生にとって社会教育事業参加はどのような学びの機会となるのか ・大学生が社会参画(社会教育事業への参加)することの社会への影響 ・大学生が取組可能な社会教育活動(少年育成事業)の内容・日程 ・実践活動の効果と課題(大学生と児童生徒双方への影響) ・学業(大学での履修・専攻分野)の社会教育活動への応用の可能性 <p>※本調査実施後の大学生の社会教育事業への参加継続[期待]</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学国際関係学部の学生団体(公認団体KOMPIS) ・市内の社会教育団体(少年育成事業実施団体) ・各小中学校
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生涯学習センター及び各公民館施設の使用 ・社会教育団体(少年育成事業実施団体)の指導員からの助言 ・ゼミ等が実施する行事やイベント等の小中学校(保護者を含む。)への周知

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	日本大学	学部等	国際関係学部
ゼミ・団体名 (担当教員)	公認団体KOMPIS (担当教員 助教 松浦 康世)	連絡先 E-mail	matsuura.michiyo@nihon-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	生涯学習課 女性青少年係
電話番号	055-983-0883
E-mail	syougai@city.mishima.shizuoka.jp
2019年度担当者	佐藤倫彦、山本陽子

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士宮市		優先順位	1
課題タイトル	芸術による地域振興プロジェクト			

課題の概要(背景や理由等)	富士宮市の青木平地区は、約40年前に造成された高台の住宅地で、オシャレな戸建住宅が立ち並ぶ地域であり、多くの芸術家やデザイナーの方などが居住している。 現在、地区内の高齢化が進み、地域としても若い人の移住定住に向けた取組を推進しているが、より青木平地区の魅力を発信していくため、特色である「芸術」を活かした展開を必要としている。
希望する調査研究内容や期待すること	青木平地区の認知度を向上し、多くの方に地区を訪れていただくきっかけとなる手法(芸術家やデザイナーの方と学生との協働など)について、若者目線での提案を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	青木平区 富士宮市観光協会 富士宮商工会議所
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用(会議室等) 上記団体等への紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画戦略課 地域政策推進室
電話番号	0544-22-1215
E-mail	kikaku@city.fujinomiya.lg.jp
2019年度担当者	佐野 龍貴

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士宮市		優先順位	2
課題タイトル	SDGsの推進と市民啓発の方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	富士宮市では、国連で採択を受けた持続可能な開発目標(SDGs)を、市の施策に落とし込み、積極的に推進している。しかし、市民や市内企業にまで浸透しているとは言えず、更なる普及啓発等の活動が必要である。
希望する調査研究内容や期待すること	市の施策の検証や、市民等へ広く啓発する手法について、若者目線での提案を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士宮市観光協会 富士宮商工会議所
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用(会議室等) 上記団体等への紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画戦略課 企画調整係
電話番号	0544-22-1113
E-mail	kikaku@city.fujinomiya.lg.jp
2019年度担当者	服部 直也

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士市		優先順位	1
課題タイトル	個別浄化槽の実態調査に基づく清掃範囲判断基準の提言			

課題の概要(背景や理由等)	<p>浄化槽は建築基準法により建物の建築面積等から浄化槽の大きさ(人槽)が決定される。</p> <p>しかし、現在、居住人員の減少、高齢化、節水機器普及による使用水量の減少、空き家等から過大な大きさの浄化槽を使用している住宅が散見される。</p> <p>浄化槽法では1年に1回以上の清掃が求められているが、浄化槽内の汚れの状況から全量清掃か部分的清掃か判断し、適正に実施ことが求められているが、清掃業者においては機械的に全量を引き抜く清掃が主として行われている。</p> <p>以上のことから、浄化槽管理者(市民)の負担が増加し清掃を実施しない、不要な部分の清掃が行われることによるし尿処理施設の運転管理への負担増加等が発生し、持続的な適正管理が損なわれる状況が発生している。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>【希望する調査研究内容】</p> <p>各家庭の個別浄化槽の各槽ごとの汚泥堆積状況を定期的に調べ、その堆積状況と居住人員や水道使用量等から因果関係を調べる。その結果から、清掃時期や範囲(全量or部分)を判断する基準を求める。</p> <p>【期待すること】</p> <p>客観的な判断による清掃業者の業務の効率化、搬入される汚泥濃度の均一化・減量化によるし尿処理施設の運転管理の安定性と経費削減、浄化槽管理者(市民)の清掃代金の低減と持続的な管理の継続が期待でき、結果的に持続的な公共用水域の保全・公衆衛生の向上につながることを期待する。また、この結果は浄化槽行政の施策立案や県内を問わず全国的にも活用できるデータとなり得る。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>静岡県環境整備事業協同組合</p> <p>(一社)静岡県浄化槽協会</p> <p>(一財)静岡県生活科学検査センター</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査世帯の選定 ・居住人員、水道使用量、維持管理状況などのデータ提供

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	社会環境学部
ゼミ・団体名(担当教員)	小川 浩 教授	連絡先 E-mail	ogawah@fj.tokoha-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	上下水道部生活排水対策課
電話番号	0545-67-2850
E-mail	seikatuhaisui@div.city.fuji.shizuoka.jp
2019年度担当者	石川 浩之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士市		優先順位	2
課題タイトル	富士市における効果的な肥満対策について			

課題の概要(背景や理由等)	本市の「お達者度」(静岡県が独自算出している、65歳から元気で自立して暮らせる期間)は、男女とも県平均を下回っており、県内35市町中20~30位台と下位に位置する。 また、特定健診結果のよると、肥満該当者やメタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者が県平均を上回っており、お達者度の延伸や生活習慣病予防の観点から、効果的な肥満対策を推進していく必要があるため。
希望する調査研究内容や期待すること	肥満の背景には、食習慣や運動習慣、またストレスや勤務形態等、様々な要因が考えられるため、本市の肥満要因を明らかにするとともに、効果的な肥満対策についての提言を求めたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・関連団体等の紹介 ・会議室の貸与

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	聖隷クリストファー大学	学部等	リハビリテーション学部
ゼミ・団体名(担当教員)	理学療法学科長 矢倉 千昭 教授	連絡先 E-mail	電話:053-439-1481(研究室) chiaki-y@seirei.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	健康政策課
電話番号	0545-64-9023
E-mail	ho-kenkou@div.city.fuji.shizuoka.jp
2019年度担当者	塩谷・佐野

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡市		優先順位	1
課題タイトル	静岡市における活気のある安全・安心なまちづくりに向けた地域デザイン手法の開発 ～学・官・民 連携した減災対策(耐震化事業を含む)の推進手法の構築～			
課題の概要(背景や理由等)	木造住宅の耐震対策事業は、平成14年度から実施している。16年をピークに、申請件数は右肩下がりになっており、26年度には補強工事97件まで落ち込んでいる。全国的にみても、住宅の耐震化が必要であることの認識は定着しているが、申請件数の減少に歯止めがかからない。古い木造住宅が多く残されている地区において火災が発生した場合、延焼し多くの被害をもたらしている。地震だけでなく、風水害や火災延焼を含めたリスク回避のための災害予測が求められている。AIを活用した技術が、交通事故を急激に減少させている中、衣食住の”住”への安全・安心の提案を求めたい。			
希望する調査研究内容や期待すること	静岡市葵区城北地区、駿河区川原地区、清水区岡地区において、すでに整理されているリスト、マッピング済の住宅地図を活用し、対象住宅の聞き取り調査を行いたい(同行予定)。 地域デザイン手法、社会学における実践理論を活用し、地域で求められている減災対策、地域にふさわしい減災対策の提案を期待する。また、航空写真(消防ヘリの活用等)を活用し、延焼予測等、日常的な災害リスクへの対応検討も期待する。			
情報収集や意見交換等で連携する団体等	静岡県建築士会、静岡大工建築業協同組合、静岡県、国土交通省、連合自治会			
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	対象地区の未耐震建築物リスト、同マッピング済住宅地図の提供。 平成30年度に予定している消防ヘリコプターを活用した上空調査結果の提供。			

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	特になし	学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	都市局 建築部 建築指導課 安全推進係
電話番号	054-221-1124
E-mail	kenchikushidou@city.shizuoka.lg.jp
2019年度担当者	服部智一

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡市		優先順位	2
課題タイトル	静岡市におけるテレワークの有効性に関する調査研究: 持続可能な成長・発展モデルの探索			

課題の概要(背景や理由等)	<p>少子高齢化、生産年齢人口の減少、都市部と地域の格差拡大が進む一方、ICTの普及、グローバル化の進展によって、地域経済は深刻な課題に直面している。行政・企業・地域の具体的な課題は、人口活力(定住人口、交流人口)の維持・向上、人材の確保・育成、生産性の向上・イノベーションの創出、ワーク・ライフ・バランスの推進等である。2020年に向け、産官学連携により国民運動として推進している「テレワーク」に注目し、本市における実態把握、好事例の発見、持続可能な成長・発展モデルを検討する。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>調査研究は、「まちごとテレワーク調査事業」等のこれまで実施した調査結果の再分析、市内企業・市内コワーキングスペース等へのヒアリング調査、成果報告会の開催等を希望する。また、これにより、「テレワーク」に関する市内企業の認知度、ニーズ、有効活用、普及の促進と阻害要因、市内コワーキングスペースの有効活用の実態把握、モデル事例の発見・発信等の効果を期待している。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総務省(まちごとテレワーク調査事業) ○ 日本テレワーク協会(各種情報提供) ○ コワーキングスペース等施設運営事業者(施設視察・調査関係) ○ 静岡商工会議所(市内企業調査・発信関係) ○ 静岡県経営者協会(市内企業調査・発信関係)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちごとテレワーク調査事業の調査結果提供 ○ 市内コワーキングスペースの視察、調査に関する調整 ○ 各種打合せ、成果発表会の会場提供、成果発信の支援 ○ 関係団体等の紹介、打合せなど

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	経営学部
ゼミ・団体名(担当教員)	准教授 小豆川 裕子	連絡先 E-mail	shozugaway@sz.tokoha-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画局 企画課 移住・定住推進係 経済局 商工部 商業労政課 雇用労働政策係
電話番号	054-221-1240 054-354-2410
E-mail	kikaku@city.shizuoka.lg.jp shogyo@city.shizuoka.lg.jp
2019年度担当者	企画課 洪 晟云 商業労政課 岡村 萌香

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	藤枝市		優先順位	1
課題タイトル	若者を呼び込むための市を紹介する冊子制作業務			

課題の概要(背景や理由等)	本市を含む県内では、進学や就職を機とした若者の県外流出が大きな課題である。そのため、若者のUIターンへの動機付けや、移住・定住、交流人口拡大に結び付け、コアターゲットを絞ったプロモーションを展開したいと考えている。
希望する調査研究内容や期待すること	本市を訪れたり、就職先や今後働き、暮らすための拠点として、本市を選ぶきっかけとなるような情報を掲載した、若者を呼び込むための冊子を作成したい。そのために、大学生の立場で、何を掲載すると若者を惹きつけることができるのか、その内容を調査・研究し、市とも協議を重ねながら、AR機能付きの8ページ程度の冊子を成果品として制作して欲しい。調査・研究を熱心に行い、紙面構成のためのデザインや動画撮影・編集を得意とするゼミに研究を依頼したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	藤枝市 広報課
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	藤枝市役所 会議室の貸与 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	広報課
電話番号	054-643-3108
E-mail	info@city.fujieda.shizuoka.jp
2019年度担当者	小山佳世

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	川根本町		優先順位	1
課題タイトル	農家民宿・民泊における地域食材を利用した朝食や体験について			

課題の概要(背景や理由等)	<p>当町は、近年、農家民宿や民泊の起業が増加しています。その理由は、「寸又峡夢の吊橋や奥大井湖上駅といった絶景」の評価が高まっていることと考えます。また、ラグビーW杯や東京オリンピック・パラリンピック等により、外国人観光客の増加も予想され、農家民宿や民泊への期待値も高まっていると思います。</p> <p>そのような中で、地元食材を利用した朝食や体験の提案などを通して農家民宿・民泊の魅力をより高めるきっかけにしたいと思います。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域食材(素材)の洗い出し ・展開する地域事業者(協力する地域外事業者を含む)の洗い出し ・地域事業者と連携した朝食づくりや体験の提案 ・川根本町の農家民宿や民泊の魅力発信
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>川根本町商工会 川根本町まちづくり観光協会 (一社)エコティかわね 特定非営利活動法人かわね来風</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室等の提供 ・地域事業者等の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	農学部
ゼミ・団体名(担当教員)	農食コミュニティデザインコース (藤本穰彦准教授)	連絡先E-mail	054-238-4866

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光商工課商工交流室
電話番号	0547-58-7077
E-mail	kanko-shoko@town.kawanehon.lg.jp
30年度担当者	商工交流室 主事 中野 吉洋

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	川根本町		優先順位	2
課題タイトル	古文書整理			

課題の概要(背景や理由等)	旧本川根町史作成時に調査した古文書の再整理とその他多数の古文書の整理を行うことにより町の歴史として必要な古文書の滅失を防ぐため。
希望する調査研究内容や期待すること	古文書等の整理と内容の把握。町の歴史として町で保管等検討した方がいい蔵書の判別について。今後の資料の保管方法や活用方法について。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	文化財保護審議会等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連する個人や団体の紹介、その他必要と思われること。

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部 国際文化学科
ゼミ・団体名 (担当教員)	学科長 西田かほる 准教授 水谷悟	連絡先 E-mail	nishida@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	教育委員会 社会教育課
電話番号	0547-58-7080
E-mail	shakai-kyouiku@town.kawanehon.lg.jp
2019年度担当者	中村慎

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	島田市		優先順位	1
課題タイトル	空き地・空き家の活用によるまちなか再生の提案			

課題の概要(背景や理由等)	本市の中心市街地では、空き地、空き家が多く存在しており、まちなかにぎわいの妨げになっている。にぎわいを創出するためには、空き家等のリノベーションによりまちなかに人が集える場所づくりが必要だと考える。
希望する調査研究内容や期待すること	現況調査、住民意向調査、リノベーションによる拠点づくりの提案
情報収集や意見交換等で連携する団体等	まちづくり市民会議(都市計画マスタープランの改定に当たり検討を行っている市民の代表者による会議) アドバイザー会議(都市計画マスタープランの改定に当たり検討を行っている学識経験者による会議)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、地元代表者等(窓口)の紹介など

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	都市政策課 都市政策推進係
電話番号	0547-36-7177
E-mail	toshikei@city.shimada.lg.jp
2019年度担当者	大池信司

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	島田市		優先順位	2
課題タイトル	島田市への来訪者の現状分析と観光資源活用策の提案			

課題の概要(背景や理由等)	観光総合戦略を来年度策定する。この地域ならではのストーリー性を持ったプログラムの開発と商品化を行う。更に情報発信していくことで、通過型から滞在型の観光へ転換を図り、地域経済の活性化、「稼ぐ観光」に取り組んでいく。そのために、観光資源の新たな発掘、既存資源の磨き上げ、それらの組合せや連携によるプログラムの構築等が必要となる。
希望する調査研究内容や期待すること	デジタルマーケティングの手法を取り入れた観光客の動向等の分析と合せて、 ①来訪者(観光客)調査(対面式による観光施設等におけるアンケート調査) ②観光資源の発掘、既存資源の磨き上げ、観光プログラムの構築による提案を実施し、地域の事業者と観光を結びつけることにより、地域の活性化を図る作戦書としたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	島田市観光協会、島田市商工会議所、島田市商工会等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	資料・情報の提供、会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業観光部観光課観光交流係
電話番号	0547-36-7163
E-mail	kankou@city.shimada.lg.jp
2019年度担当者	

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	菊川市		優先順位	1
課題タイトル	外国人住民の生活支援のための情報入手方法等に関する調査研究			

課題の概要(背景や理由等)	本市における外国人住民数は、平成30年12月末現在で3,310人で総人口に占める割合は6.86%と県内でも高い値となっている。 外国人労働者の受け入れ拡大に向けた改正出入国管理難民法が国会で可決され、4月から施行されるなど、外国人住民の更なる増加が予想されており、外国人住民の生活支援に取り組む必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	外国人住民が日本で生活するうえでどのような手段(ツール)で情報を入手しているか、又、どのような情報を必要としているかを調査し、効果的な情報発信の方法や発信すべき情報などを研究していただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	菊川市国際交流協会、外国人児童・生徒初期支援教室、市内のブラジル人学校等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、調査会場の提供、関連団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	教育学部・外国語学部
ゼミ・団体名(担当教員)	多文化共生ゼミ(星野・江口)	連絡先 E-mail	hhoshino@sz.tokoha-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	地域支援課 市民協働係
電話番号	0537-35-0925
E-mail	tabunka@city.kikugawa.shizuoka.jp
2019年度担当者	赤堀景介、松下愛理

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	菊川市		優先順位	2
課題タイトル	菊川市における今後のごみ減量及びリサイクル推進施策について			

課題の概要(背景や理由等)	菊川市の1人1日当たりのごみ量は、市民・事業者の協力を得るなか県内の市町で3番目(平成28年度実績)に少なくなっています。しかしながら、近年リサイクル率が下がってきています。このことから、更なるごみ減量とともにリサイクル率の向上を図る考えております。
希望する調査研究内容や期待すること	菊川市における今後の(新たな)ごみ減量及びリサイクル推進施策の研究(2020年度策定予定の次期菊川市一般廃棄物処理基本計画における新規施策研究) ※学生の視点からの施策研究を期待しています。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	菊川市環境審議会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	菊川市のごみ量・組成及び分別ルールの資料 等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	生活環境部 環境推進課 環境推進係
電話番号	0537-35-0916
E-mail	kankyou@city.kikugawa.shizuoka.jp
2019年度担当者	横山・赤堀・福嶋

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	掛川市		優先順位	1
課題タイトル	掛川市立小中学校学校再編計画の策定について			

課題の概要(背景や理由等)	全国的に少子化が進む中、本市においても小中学校の児童生徒数は減少し、平成元年の14,272人から、平成30年では9,759人と平成の30年間で32%も減少した。現在の未就学児人数を勘案しても、今後さらに減少の傾向である。 また、昭和40～50年代に建設された校舎が多く、老朽化が進んでおり、現在は修繕で対応している状況である。今後更新の時期を迎えるものの、全学年単学級の小学校も増えており、市の財政的にも新たな校舎をそのまま建設することは難しい。 これらを踏まえ、全市的な学校再編の方向性をまとめていく必要が生じている。
希望する調査研究内容や期待すること	全市的な学校再編の基本的な考え方について調査研究をお願いしたい。 現在市内には22小学校、9中学校の計31校あるが、適正規模・適正配置の考え方に基づき、学校数を減らしていきたい。 今後、(仮称)掛川市学校再編計画庁内検討委員会を組織して、学校再編の検討を行う予定であり、同委員会と連携しながら、大学等による専門的な見地から学校再編計画策定に御支援をお願いしたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	(仮称)掛川市学校再編計画庁内検討委員会(平成31年4月に発足予定)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与 小中学校の児童生徒数、校舎等の各種学校関係資料の提供 市内人口統計資料の提供

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	地域創造教育センター
ゼミ・団体名(担当教員)	阿部耕也教授	連絡先 E-mail	abe.koya@shizuoka.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	掛川市教育委員会 教育政策室教育政策係
電話番号	0537-21-1109
E-mail	kyoikubu@city.kakegawa.shizuoka.jp
2019年度担当者	水谷 忠史

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	掛川市		優先順位	2
課題タイトル	オリーブの商品化とお茶とオリーブの健康効能の解明について			

課題の概要(背景や理由等)	掛川市は平成28年度からオリーブの栽培を推進。オリーブは加工が必要な果実であり、全国でもオリーブオイルをはじめとする商品化が進んでいる。お茶農家の経営安定につなげるための作物として注目しており、果実だけでなく、現在ある葉、樹を利用して、収入につなげていきたいと考えており、他の生産地との差別化された商品を開発していきたい。また、お茶の産地である掛川において、健康によいとされるオリーブを栽培することにより、お茶(カテキン)とオリーブ(ポリフェノール)を合わせた健康効能を解明し、健康日本一を目指していく。
希望する調査研究内容や期待すること	オリーブの果実、葉、樹を利用した商品のアイデア、開発に関すること。食に限らず、生活に関する商品を期待する。 お茶とオリーブを合わせて摂取することによる具体的な健康効能を解明し、有効に作用する摂取方法に関する研究。 ※商品開発と調査研究の2分野に渡るものとなるが、どちらか一方の課題解決でも可。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	被験者を集めることは協力可能。量によりますが、オリーブオイルとお茶について提供も可能。現在、果実が採れる圃場がないため、果実の提供は不可。葉、樹については剪定枝の提供可能。(ただし、事前調整が必要。)

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	農林課農産係
電話番号	0537-21-1147
E-mail	norin@city.kakegawa.shizuoka.jp
2019年度担当者	三浦正和

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	袋井市		優先順位	1
課題タイトル	アイルランドオリンピックチームの受入に向けた地域の機運醸成について			

課題の概要(背景や理由等)	2020東京オリンピックの際に、アイルランドオリンピックチームが、選手村入りする前にエコパスタジアム等で事前のキャンプを行う。 アイルランドチームを応援する機運を高め、キャンプ時のボランティアや大会本番のアイルランドチーム応援団結成などに繋がりたいが、アイルランドとの交流を深めていくにあたって、市民を巻き込む仕掛けづくりに苦慮している。
希望する調査研究内容や期待すること	大学生(若者)の目線でアイルランドについて、市民が広く知るための取組を提案いただくとともに、VRやARなどのデジタルを活用し、アイルランドの歴史や文化を紹介し、幅広い世代に興味と関心を持ってもらえるようなコンテンツを作成したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	袋井市役所職員(スポーツ推進課、企画政策課など)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・会議室の貸与 ・関連資料の提供 ・助言 ・現地踏査の調整及び同行 など

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡理工科大学	学部等	情報学部コンピュータシステム学科
ゼミ・団体名(担当教員)	定國 伸吾 准教授	連絡先 E-mail	sadakuni.shingo@sist.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	袋井市スポーツ推進課ラグビー開催準備室
電話番号	0538-44-3139
E-mail	sports@city.fukuroi.shizuoka.jp
2019年度担当者	辻本 潤

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	浜松市		優先順位	-
課題タイトル	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	<p>浜松市の中山間地域である天竜区佐久間町は、浦川歌舞伎や川合花の舞を始めとした民俗芸能等の文化とともに、かつて、海の幸、山の幸を運ぶ「塩の道」となった甲州街道(秋葉街道)が通り栄えていたが、近年は高齢化率が60%に近付き高齢者の独居世帯も増加している。商店の閉店も進み、過疎地域特有の課題を抱えているところである。</p> <p>この課題解決には、行政だけでは限界があり、若い人材や高度な知識を有する地域の大学の協力が不可欠である。</p> <p>とりわけ、静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科の船戸ゼミは、中山間地域の研究を専門に行っており、H25は春野地域、H26は龍山地域、H27は佐久間町山香・城西地区、H28は佐久間町佐久間地区、H29・30は佐久間町浦川地区においてフィールドワークを行い、浜松の中山間地域が抱える課題を調べ、調査報告会を通じて浜松市や地域住民へ課題のフィードバックをはじめ、課題解決に大いに寄与してきた。</p> <p>昨年は、調査対象を地域住民だけでなく、出身者(他出子)まで広げて、新たな視点から地域づくりの可能性を研究してきた。よって、次年度以降も引き続き佐久間町浦川地区における未着手の地域の調査及び出身者と地域とのかかわりに関する調査をお願いしたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>進行する過疎化を食い止めるためには、地域の個性や資源を理解し、地域の住民が主体となって、地域の課題解決や地域おこし活動を行うことが非常に重要である。とりわけ、大学生等がその取り組みに携わることは、都会の若者に地域への理解を促すとともに、地域にとっても、課題や魅力について考えたり気づいたりするきっかけが生じることにつながる。</p> <p>既に浜松の中山間地域について研究を進めている静岡文化芸術大学の船戸ゼミには、積極的に現場に入り、フィールドワークを通じて、地域住民やNPO法人ががんばらまいか佐久間などの地域づくり団体とともに、地域の課題解決に取り組み、佐久間地域の活性化に資する調査・研究を行っていただきたい。</p> <p>特に、春野地域や龍山地域とは異なる佐久間地域の課題の特性や、出身者の実態と今後の地域活動へのかかわり方についても研究対象とし、新たな北遠地域の可能性が浮かび上がることを期待している。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市佐久間協働センター ・佐久間地区自治会連合会 ・浜松山里いきいき応援隊 ・地域づくり団体(NPO法人がんばんらまいか佐久間 等) など
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>市の市民協働・地域政策課や佐久間協働センターが、静岡文化芸術大学の船戸ゼミと佐久間の自治会や地域づくり団体(NPO法人など)との橋渡しを行うとともに、フィールドワークを行うにあたり、市民協働・地域政策課及び佐久間協働センター職員、また市が委嘱する浜松山里いきいき応援隊が適宜サポートをすることで、円滑に調査・研究が行われるよう支援する。</p> <p>また、必要に応じ、協働センターの会議スペース等を無償貸与する。</p>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ・団体名(担当教員)	船戸 修一	連絡先 E-mail	s-funa@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市民部 市民協働・地域政策課 中山間地域グループ
電話番号	053-457-2243
E-mail	shiminkyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp
2019年度担当者	山下 貴帆

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	浜松市		優先順位	-
課題タイトル	春野町における民間口承文化財(昔話)の採録による地域文化の保存継承			

課題の概要(背景や理由等)	<p>天竜区には、数多くの有形無形の文化財が存在し、こうした地域資源は、地域への誇りととともに生活の潤いと質を向上させる力となる。区においては、これらを保存継承し地域の活性化につなげ、地域文化の豊かさを実感できる環境づくりが求められている。</p> <p>天竜区の中山間地域において少子高齢化に伴う過疎化が進行する中、昔から地域に伝わる昔話(伝説)や家庭に受け継がれた昔話を継承できる人たちが数少なくなっており、地域に根差して語り継がれてきた無形の文化財が消滅していくことが文化財保護の観点からも大きな地域課題となっている。</p> <p>そのため、現在まで引き継がれている口承文化財としての地域文化である昔話を保存継承し、後世にこの土地に生きてきた人々の心と記憶の文化遺産を伝え残していかなければならない。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>地元住民から直接的に口承文化財としての昔話を調査聞き取り記録することにより、一層その学術的な価値が高くなるとともに、書籍にすることにより将来的においても地域の生活文化を正確に顧みることができる。</p> <p>また、この地域の人々の心の豊かさにも深く接することにより、その地域の特性や価値が学術的にも明確に分析することができる。</p> <p>以上のことから、天竜区春野町全域を対象として、民間口承文化財(昔話)の採録調査を実施し、その保存、公開、継承を目指したい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	春野町内各自治会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	自治会等への昔話採録調査の協力呼掛けや自治会館等の使用許可依頼 春野協働センターの市民協働スペース利活用等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ・団体名(担当教員)	二本松ゼミ(伝承文化ゼミ) 二本松 康宏	連絡先 E-mail	y-niho@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	春野協働センター、生涯学習グループ
電話番号	(053)989-0200
E-mail	hr-bunka@city.hamamatsu.shizuoka.jp
2019年度担当者	市川 加代子

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡県		優先順位	1
課題タイトル	ボランティアによる里地・里山の保全活動の社会的価値の可視化			

課題の概要(背景や理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・里地・里山は、長年にわたり人の手によって保全され、その豊かな生物多様性などによって、人々の生活に様々なめぐみをもたらしてきた。 ・現在の里地・里山は経済活動による保全が困難であり、NPOなどの森づくりボランティア団体が主な担い手となっている。 ・団体の活動に対し、国(林野庁)、県、市町、(公財)静岡県グリーンバンク、企業等が支援を実施しているが、ボランティア団体はメンバーの固定化・高齢化が進んでおり、新たな参加者の確保が必要である。 ・このため、活動の成果を見える化し、団体自らのモチベーションの維持・向上とともに、多くの県民・企業等の理解を得て、新たな参加を呼び込む必要がある。 ・しかし、団体は、活動内容の記録やテキスト化を担う人材がいないため、外部へのPRにも活用できるレベルの資料の作成には、関係機関などとの連携による取組が必要である。 ・なお、林野庁において「森林整備等の活動による社会的価値の可視化」に向けたモデル調査を実施中で、年度内にはその結果や評価手法等を活用することが可能となる。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体の保全活動の社会的価値を可視化(数値化)することで、一般県民・企業等の活動への理解を深め、新たな支援者、参加者を確保し、里地・里山の持続的な保全を図る。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)静岡県グリーンバンク(森づくり団体への支援を実施しており、団体の活動内容等の情報を持っている。) ・県内で各地の里地・里山で活動する森づくり団体(県内で活動している約100団体のうち、構成員数や活動内容などから、40団体程度が連携の候補。さらにそこから2~3団体に絞り、連携して調査することを想定。)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介)	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁内及び出先機関(農林事務所)会議室の貸与、森づくり団体の紹介、活動フィールドの案内、林野庁のモデル調査結果等の提供。

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境ふれあい課自然ふれあい班
電話番号	054-221-2848
E-mail	fureai@pref.shizuoka.lg.jp
2019年度担当者	橘川、木田

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡県		優先順位	2
課題タイトル	中田島砂丘及び五島地区の海岸湿地における環境保全の仕組みづくり			

課題の概要(背景や理由等)	浜松市南区の中田島砂丘では、外来植物等による砂地の草地化が進み、砂丘環境に依存した貴重種の絶滅や、砂丘景観の劣化が懸念されている。 五島地区の海岸湿地では、貴重な水生植物・水生昆虫が生息しているが、外来の水生植物・水生昆虫類の移入による生息環境の悪化が懸念されている。 浜松市沿岸域防潮堤整備事業においては、事業における影響軽減対策とあわせ、砂丘や海岸湿地の環境改善に取り組んでいる。しかし、平成31年度に事業が完了することから、地域や有志団体等に、その取り組みを引き継いでいく必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	・砂丘や海岸湿地の環境保全及びそこに生息する貴重種の調査・保全活動 ・永続的な砂丘や海岸湿地の環境保全活動の仕組みづくり
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・県立浜松南高等学校 ・株式会社ヤマハ発動機 ・株式会社フジヤマ ・浜松市沿岸域防潮堤整備事業に係る自然環境検討委員会 ・県浜松土木事務所沿岸整備課 ・県西部農林事務所森林整備課
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・これまでの調査及び活動に関する資料(※貴重種情報を含むので取り扱い是非公表) ・協力団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	河川海岸整備課 海岸整備班
電話番号	054-221-3036
E-mail	kasen@pref.shizuoka.lg.jp
30年度担当者	主任 袴田 充哉

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

締切 : 4月12日(木)

自治体名	静岡トヨタ自動車株式会社		優先順位	指定
課題タイトル	カーシェア普及のためのマーケティング戦略			

課題の概要(背景や理由等)	自動車業界では、100年に1度の大変革期と言われ、「MaaS」という言葉を目にする機会が多くなってきた。「クルマ」の「所有」から「シェア」への変化が見込まれる。しかし、交通網の充実した都心部では需要も多く成り立つ背景も見て取れるが、地方である静岡県においての「シェア」の形がまだはっきりと見えない。そんな中、これからの時代を担う学生たちと共に県内カーシェア普及について研究を行っていく。
希望する調査研究内容や期待すること	学校内へカーシェアリング車両の設置を行い、稼働状況の予測・実際の稼働状況をゼミ生と共有し、動向を検証すること <弊社>シェアの中心となっていくであろう若者の考え方や若者ならではのマーケティングの発想・効果的なカーシェアを模索 <大学>告知方法(含、SNSの活用等)を工夫することで、利用率や認知度の変化を知り、マーケティングの実体験を学生にも積んでもらう
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・静岡トヨタ自動車株式会社 ・必要に応じて遠鉄グループ各社に相談も可能
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・カーシェアリング用車両の設置・運営・管理 ・必要に応じ当社会議室の無償貸与、当社社員のゼミへの参加 等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
 (ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	人文社会科学部 経済学科
ゼミ・団体名(担当教員)	マーケティングゼミ(鈴木拓也様)	連絡先 E-mail	suzuki.takuya@shizuoka.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	静岡トヨタ自動車(株) 営業企画室 桜井・川田
電話番号	054-264-7058(桜井) 054-264-7057(川田)
E-mail	toshiya.kawata@shizuokatoyota.entetsu.co.jp
2019年度担当者	桜井・川田

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	伊豆の国市		優先順位	3
課題タイトル	イノシシの生息状況調査と人との接触機会減少に向けた対策の検討			

課題の概要(背景や理由等)	伊豆の国市に位置する平山特定猟具(銃)使用禁止区域(約80ha)は、韮山高校や韮山中学校、重要文化財の江川邸に隣接し山全体が遺跡となっていることから銃による捕獲が禁止されている。しかしながら近年イノシシの出没や掘り起しが問題となっており、地域住民及び観光客やハイカーの安全確保が課題となっている。そのため、現在の同区域におけるイノシシの生息数を科学的に把握し、人との接触防止対策に繋げたい。
希望する調査研究内容や期待すること	・平山特定猟具(銃)使用禁止区域におけるイノシシの生息状況調査 ・出没防止(接触機会の減少)に向けた対策の検討 農地を柵で囲い農作物を守るようなケースではなく、人との接触を減らす対策の検討を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	伊豆の国市農業商工課 地元猟友会 地域住民、地権者 等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室・監視カメラの貸与、関連団体等の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	農業商工課 農地森林係
電話番号	0558-76-8003
E-mail	nousin@city.izunokuni.shizuoka.jp
2019年度担当者	異動の可能性があるので不明。(2018年度:石井)

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	御殿場市		優先順位	
課題タイトル	アウトレット客の御殿場市内の周遊状況調査について			

課題の概要(背景や理由等)	近年の御殿場市の観光交流客数は御殿場プレミアム・アウトレットや御殿場高原時之栖などの集客拠点への集客数は増加しており、静岡市、浜松市について県下第3位を維持している。今後も増加を維持し続けるためにも、観光客が観光を楽しむうえで、何を求めているのかを知り、ニーズに合った対応を行っていく必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	御殿場プレミアム・アウトレット内の観光案内所で、アンケート調査を行う。アウトレット客の施設周遊後の流れや御殿場市内への観光として求めること等を調査願いたい。また、可能であれば、アンケート調査で得られたデータをもとに、今後の観光のあり方について思案願いたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	御殿場市関係各課 御殿場市観光協会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	御殿場市観光交流課
電話番号	0550-82-4622
E-mail	kanko@city.gotemba.lg.jp
2019年度担当者	熊谷 友彦

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士宮市		優先順位	3
課題タイトル	スペースシェアによるまちなかにぎわいづくり事業			

課題の概要(背景や理由等)	現状、中心市街地エリアにおいて、有効に使われていない空き店舗や空き地が増えてきている。 まちなかにぎわいづくりとして、市民がまちなかへ行く運動を展開するとともに、中心市街地エリアにある空き店舗や空き地を活用し、市民の展示、発表の場などの新たな空間を創出する。
希望する調査研究内容や期待すること	スペースシェアの仕組みを使い、若者目線で、使われていないまちなかの空き店舗や空き地に、市民が集える新たな空間(店舗に依存しない広い視野に立った利用方法)を創出する提案を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士宮商工会議所 富士宮商店街連盟
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用(会議室等) 上記団体等への紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画戦略課 企画調整係
電話番号	0544-22-1215
E-mail	kikaku@city.fujinomiya.lg.jp
2019年度担当者	佐野 和也

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士市		優先順位	-
課題タイトル	リノベーションによる特色や魅力ある「まちなか」のエリアマネジメントに向けて ～地域が求める商店街とは～			

課題の概要(背景や理由等)	<p>現在、富士市の中心市街地(まちなか)である富士と吉原の商店街では、空きビル・空き店舗が点在する中、官民連携のもと、リノベーションを中心とする賑わいの再生を図る取り組みや仕組みづくりを進めている。</p> <p>賑わいを再生するにあたり、経済や人が循環するまちづくりを行うためには、まちなかのエリア価値と民間投資の向上に取り組む必要がある。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>リノベーションによる特色や魅力あるまちなかのエリアマネジメントに向けて、点在する空きビル・空き店舗を活用する際の地域(市民、商店街、不動産オーナー)のニーズ調査やマッチングを行う。</p> <p>そして今後、まちなかに新規事業者を呼び込むにあたり、「行きたい」「来てほしい」、と地域が求める商店街となる業態の仕組みづくりや可能性を探る。</p> <p>本調査研究により、リノベーションによる空きビル・空き店舗を活用した賑わいの再生に向けたヒントや足がかりとしたい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山まちづくり株式会社 ・吉原商店街振興組合 ・富士本町商店街振興組合 ・富士TMO(富士商工会議所)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	関連団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	商業労政課 商業担当
電話番号	0545-55-2907
E-mail	sy-syougyou@div.city.fuji.shizuoka.jp
2019年度担当者	中田

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	富士市		優先順位	
課題タイトル	富士市内企業の人材不足解消のために行う効果的な学生のUJIターン施策について			

課題の概要(背景や理由等)	富士市の有効求人倍率は、1.64倍(H30.10)であり、市内企業では、人材不足の状況が続いている。この状況を改善するため、本市においてもインターンシップ支援事業や富士市内事業所見学会、高校生Iターン事業などUJIターン施策を行っているが、即効性のある改善に結びつくことが難しく、より効果的な事業実施方法について研究している。学生の意識調査を通して、本市における効果的な施策の検討を願いたい。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・富士市出身で県外在学学生(大学、短大)のUターン就職に対する意識調査 ・Iターン就職が可能な県外在学学生(高校、短大、大学)の意識調査 ・富士市で現在行っているUJIターン施策を含め、市内企業の人材不足の解消に繋がる効果的な方策の提案
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士地区UJIターン促進協議会、富士公共職業安定所、富士商工会議所、富士市商工会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業経済部商業労政課雇用労政担当
電話番号	0545-55-2778
E-mail	sy-syougyou@div.city.fuji.shizuoka.jp
2019年度担当者	林(予定)

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡市		優先順位	自由1
課題タイトル	徘徊認知症高齢者搜索模擬訓練の参加と事業効果検証			

課題の概要(背景や理由等)	高齢化が進展する中で、認知症高齢者の増加も一途となり、認知症対策は喫緊の課題である。認知症は自覚症状がなく、徘徊して、道に迷い、自宅に帰れなくなることも起こる。認知症の予防とともに、たとえ認知症になっても安心して暮らせるように地域全体が協力しあうことが必要であり、認知症により行方不明となってもできるだけ早く安全に保護できるような地域づくりを目指したい。
希望する調査研究内容や期待すること	小学校区程度の地区8か所で、地域住民や自治会、介護事業者等が参画し、情報伝達訓練及び徘徊役になった人を発見し、自宅に帰れるような声かけをするなど、搜索から発見・保護するまでの一連の流れを実施する。今後、この訓練を各地区に拡大していきたいため、模擬訓練に参加していただき、課題や参加者のニーズなどの調査分析、訓練の効果検証を行っていただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	地域包括支援センター、地区社協、自治会、民児協、介護事業者、商店や警察など
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会場及び担当者、参加者、参加人数等の情報提供 ・打合せを行うための会議室の提供 ・参加団体の紹介 ・団体との事前打ち合わせ会、意見交換会への参加

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 在宅医療・介護連携推進係
電話番号	054-221-1576
E-mail	chiikikea@city.shizuoka.lg.jp
2019年度担当者	木下 晴美

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡市		優先順位	自由課題第2位
課題タイトル	困難を抱える高校生年代等の居場所づくりについての調査研究			

課題の概要(背景や理由等)	本市においては、これまで困難を抱える高校生を対象として、学習支援やよい仲間づくりを進めるための「高等学校学習支援事業」や、人との繋がりの場や社会的経験の機会となる居場所を創出することで、高校在学中の早い段階からフォローをしていく体制を構築するための「高校内居場所カフェ事業」を実施してきた。 同事業に参加する高校生は、義務教育期間に何かしらの躰きを経験し、不登校等の経験をしている者が多く、また、学習習慣の未習得、対人構築力の不安定さもあり、義務教育課程終了後も支援が必要となっていることから、集いやすい「居場所」としての機能をもちつつ必要な支援へ繋ぐことができる事業を検討している。
希望する調査研究内容や期待すること	事業への参画等を通じた、困難を抱える高校生等が集いやすい居場所として必要な機能や仕組みの提案
情報収集や意見交換等で連携する団体等	若者の居場所づくりを実践しているNPO法人等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与(静岡市中央体育館3階) 所管の他事業との連携 関連団体の紹介 など

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	子ども未来局 青少年育成課 育成係
電話番号	054-354-2614
E-mail	seishounen@city.shizuoka.lg.jp
30年度担当者	田中 雄基

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	川根本町		優先順位	3
課題タイトル	Instagramを活用した地域創造			

課題の概要(背景や理由等)	新東名高速道路の開通や大井川鐵道株式会社の「トーマス号」の運行により、近年、当町を訪れる観光客が増加している。しかし、いずれも著名な「夢の吊橋」や「奥大井湖上駅」などの観光スポットに集中し、途中の観光スポットには立ち寄らない傾向が多くみられる。このため、情報発信手段として「Instagram」を活用し、特に若い世代を中心に情報発信し、これまで発信情報が少ないことで観光客が立ち寄らなかったスポットへ誘導を図りたい。
希望する調査研究内容や期待すること	写真を活用した誘導策を提案いただき、実証実験まで実施したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	東海ブロードバンドサービス株式会社 川根本町まちづくり観光協会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室等の提供 実証実験実施場所の提供 実証実験に必要なインターネット環境の構築

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	情報学部
ゼミ・団体名(担当教員)	峰野ゼミ(峰野博史教授)	連絡先E-mail	mineno@inf.shizuoka.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	情報政策課情報政策室
電話番号	0547-56-2232
E-mail	joho@town.kawanehon.lg.jp
2019年度担当者	林 三貴

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	島田市		優先順位	自由1
課題タイトル	島田宿名物「朝顔蕎麦」「朝顔饅頭」の復活！			

課題の概要(背景や理由等)	江戸時代、東海道五十三次の名所・旧跡・名物を紹介する、現在の「旅のガイドブック」に相当する書物には、島田宿の「朝顔蕎麦」「朝顔饅頭」なるものが名物として紹介されている。現在、この名物とされているものは引き継がれておらず、その詳細は明らかになっていない。旅の楽しみとして往時の旅人の口腹を満たしたであろう、この宿場の名物を再現することで、川越し文化の新たな魅力づくりの一助としたい。
希望する調査研究内容や期待すること	現在のところ、参考となる文献や記録が見つからないため、当時の地元産物や「朝顔日記」に代表される伝説などをもとに「朝顔蕎麦」「朝顔饅頭」を再現し、島田宿の名物として売り出していきたいと考えている。レシピづくりをはじめとして、地元料理店や菓子店における商品化、当該商品のマーケティング戦略を含め、ご提案いただけることを期待している。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	島田商工会議所、島田市観光協会などを想定
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	打合せ場所の提供、市内関連史跡の案内、関連団体への引き継ぎなど

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	島田市教育委員会文化課文化振興係(※H31年度に組織・機構の変更を予定)
電話番号	0547-36-7966
E-mail	✕eiichi1 shinma@city.shimada.lg.jp
2019年度担当者	※新聞 英一(組織名・担当者については、変更の可能性あり)

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	菊川市		優先順位	
課題タイトル	AI・ICTを活用した地域の現状改善			

課題の概要(背景や理由等)	企業におけるAIやICTの活用が進む中、地方公共団体は一般企業に比べ、そういった技術の導入が遅れている。一方で少子高齢社会の中で将来的に職員数が減少すると予想され、技術を活かした業務負担軽減や住民サービス維持向上が必要である。 しかし、職員の視点だけでは技術についての知識が浅く、技術を知ってもどういった場面に活かせるかについての視野が狭い傾向にある。
希望する調査研究内容や期待すること	市役所業務/自治体/観光/外国人対応/複数団体の平準化におけるAIやICTの活用に対する調査・提言。 特に、SmartPlateなど活用可能性が幅広いICT機器について、学生の視点から見た業務活用法を研究してもらえることを期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川市、袋井市、御前崎市、森町(いずれも情報施策担当者レベル)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	必要な情報の提供(個人情報等を除く)。

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	秘書広報課情報政策係
電話番号	0537-35-0924
E-mail	hishokoho@city.kikugawa.shizuoka.jp
2019年度担当者	相澤

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切 1月31日(木)、第二次締切 2月28日(木)

自治体名	静岡県		優先順位	3
課題タイトル	「文化力の拠点」における若者の学び・賑わいの場の創出に向けた取組について			

課題の概要(背景や理由等)	東静岡駅南口に整備する「文化力の拠点」において、全館移転となる県立中央図書館と一体的に、図書等を活用し、体験・交流などを通じて新たな静岡の文化を創造する「新しい知的空間」を整備する。この空間では、「静岡を知る」をキーワードに、食、健康、模型、ICTなどのテーマごとにスペースを設置し、大学・企業の研究者や学生など、様々な立場の方々が自由に議論できる場とすることで、活発な交流を生み出し、本県の将来を担う人材の育成や、新しい文化の創造・発信につなげていきたいと考えている。
希望する調査研究内容や期待すること	・学生を中心とする若者が「新しい知的空間」に求める機能・効果についての調査 ・「新しい知的空間」に多くの若者が集まり、本県の新たな文化の創造・発信に繋がる活発な交流を創出する仕掛けについての研究
情報収集や意見交換等で連携する団体等	なし
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	なし

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	文化・観光部管理局政策監文化力の拠点推進班 (平成31年度:文化・観光部文化局文化力の拠点推進課)
電話番号	054-221-3507
E-mail	bunkakankou-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp ※3/31まで(4月以降のアドレス未定)
2019年度担当者	石野